

輪之内町小中学校「ひびきあい活動」

平成30年12月

< 実践1 小学校 >

【学校が培いたい行動力】

日常生活を振り返り、自己の心の中にある偏見や差別的なものの見方や考え方を改めようとする力（自己啓発力）

(1) 思いやりの花集会（12月3日）

「1人1人を大切にしようキャンペーン」後に集会を開き、各学級の実践内容と成果、今後も継続していきたいことを発表しました。また、集会では「あったかエピソードの朗読」や感想交流を行いました。



< 4年生～ちくちく言葉ゼロ～>

4月からの全員の「輝き見つけ」を継続してきました。また、「ちくちく言葉ゼロ」を目指し、帰りの会で振り返ったことを発表しました。

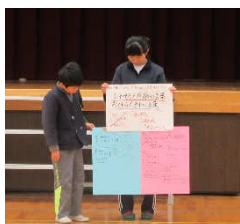
< 2年生～ぽかぽか貯金が増えたよ～>

友達をうれしい気持ちにする言葉を遣ったら、貯金箱にコインを増やしていき、ぽかぽか言葉を増やしていきました。



< 6年生～感謝の言葉を増やそう～>

「ちくちく言葉」をクラスみんなが遣わなかったかを振り返りました。感謝の言葉が遣えたときは、どんどん書き足していき、学級が増えていくようにしました。



(2) ひびきあいの日～全校道徳～（12月12日）

「教材名『ぼくのきもち きみのきもち』（法務省制作人権啓発教材）を活用して」



紙芝居を活用して、教師が範読をしました。いじめについて全校で向き合い、被害者・加害者・傍観者それぞれの立場になって、いじめがおきているときの心情を共感し、話し合いました。



その後、各学級で振り返りを行いました。自分の思いを書き、話し合いによって仲間に伝えました。

また昼の放送で、代表児童の思いを全校に伝えることで、「いじめゼロ」に向かう気持ちを全校で確かめ合いました。



< 板書 >

< 昼の放送で伝える >

児童の振り返り

< 「いじめゼロ」にするために、今日から自分ができること >

1人でもかなしんでいる子を見つけたら、「どうしたの？だいじょうぶ？」とこえをかけて、ゆう気がなくてもあやまればけんかはおこらないから、ゆう気をもってあやまりたいです。あいさつタッチはすきな子だけでなく、けんかをした子にもしたいです。（2年生児童）

私が「いじめる」立場にならないように、いろんな人に同じ態度で接することが大切だと思います。また、差別をすることはいじめに入るから、話すとき相手の子が不快な気持ちにならないように話したいです。（6年生児童）

< 実践2 小学校 >

【学校が培いたい行動力】

相手の気持ちを考えることができる心情や態度の育成

- ・ 学校や地域の人に進んで挨拶ができる
- ・ 仲間に素直に「ありがとう」と言える
- ・ 仲間のよい姿や言葉を認め合える

（1）学級ごとの「ぼかぼか宣言」について発表

学級ごとに作成した「ぼかぼか宣言」について、どのような想いで作成したのか、現状はどうか、これから学級全員でどうしていくのか発表しました。



（2）「フラワープロジェクト」成果報告

仲間にしてもらってうれしかったことや、自分が親切にしてあげられたことをそれぞれの紙に書きたため、企画委員が全校に成果報告をしました。



（3）絵本『あなのあいたおけ（作 プラムワット）』読み聞かせ

全校への絵本の読み聞かせを行いました。聞く視点を児童に伝え、聞いて感じたことを学級で感想用紙に書きました。

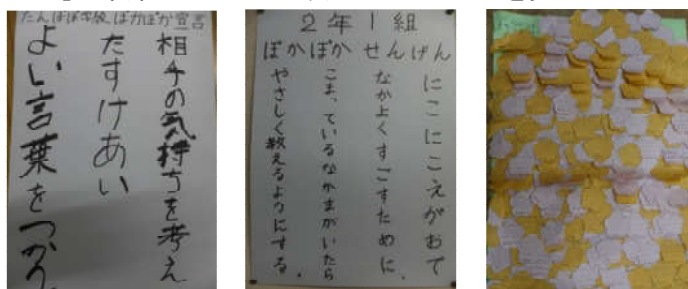
「フラワープロジェクト」で培った行動力を継続するために、集会後も「よいこと見つけ」や、「ぼかぼか宣言」で高まった意識をより高めるため、「ぼかぼか宣言」の振り返りを継続して行なっています。

事前の取組として「よいこと見つけ」、強化月間として「フラワープロジェクト」を行なったことで、「うれしかった。」や「ありがとう。」という言葉が増えました。また、仲間のために声かけだけでなく、「仲間に入れてくれた」や「わからなかったところを教えてくれた」などの具体的な行動も増えました。

児童は、次のような思いをもつようになりました。

- ・ クラスのみんながあたたかい言葉をかけたり、行動をしたりしてぼかぼか言葉や行動が増え、友達のよいことを見つかけようとしていたり助けたりしてよかったです。（5年生児童）

- ・ 友達に「ごめんね。」や「ありがとう。」と言うことが多くなってよかったです。（4年生児童）
- ・ 「フラワープロジェクト」で友達のよいことややさしいところを見つけられてよかったです。「フラワープロジェクト」が終わってもまだ友達のよいことを見つけたいです。（1年生児童）



< 実践3 小学校 >

【学校が培いたい行動力】

相手の立場や気持ちを尊重し、共に認め合い励まし合うことで、自分から「あったか言葉」を言うことや、仲良く遊んだり助け合って活動したりすることができる。

(1) 「ひびきあい集会」

1部 11月30日（金）

人権擁護委員による人権創作劇「わたしの花」の鑑賞と感想交流（各教室）



2部 12月13日（木）児童集会

- あいさつ運動の取組をふまえて、“あいさつするんジャー”メンバーの感想や、全校の「あいさつ名人」を発表しました。



- 「あったかことばキャンペーン」取組をもとに、各学級のふりかえりを発表しました。



(2) 人権DVD (ビデオ) 鑑賞を実施。

低学年「むしむし村の仲間たち」

高学年「小学生の人権学習シリーズ「人権」ってなんだろう」

< 実践4 中学校 >

【学校が培いたい行動力】

◎互いを尊重しだれとでも温かい人間関係をつくり出そうとする行動力の育成

1年…自分の考えや意見を率直に出し合い、相手の立場や意見を尊重しながら共によりよい生活をつくり上げようとする行動力

2年…自他の役割を自覚し、助け合い、励まし合う人間関係を築き、互いを高め合い、共によりよい生活を実践しようとする行動力

3年…偏見や差別を許さない心を育てるとともに、社会の一員であることを自覚し、様々な人と分かり合って、よりよい生活を築こうとする行動力

(1) 「ひびきあい集会」の開催 12月7日(金)

◎親子や家族、知人や友人と交わし合う言葉に込められた心温まる思いや願い、エピソードなどを交流し、互いを思いやることの大切さに触れ、互いを尊重して生活しようとする意欲を高める。

◎「輪之内町情報モラル宣言」への理解を深め、家庭でのSNSやインターネットの健全な利活用に関する意識を高める。

- ① 始めの言葉
- ② 「輪中人権宣言」(平成20年度策定)の説明と唱和
- ③ 「温かい言葉がけ」事例の交流(生徒、保護者、家族、教員)
- ④ PTA母親委員会による感謝状の贈呈
- ⑤ 意見・感想交流(生徒、保護者、教員による交流)
- ⑥ 情報モラル委員会からの啓発(「輪之内町情報モラル宣言」の実践化を促す。)
- ⑦ 校長講話(互いを尊重することによる喜びを語る。)
- ⑧ 終わりの言葉(保護者へのお礼、今後の生活改善に向けた願いを語る。)



生徒会による挨拶運動



毎日の「輝きみつけ」(各学級)



PTAと情報モラル研修会



ひびきあい集会(意見交流)



ひびきあい集会(感謝状贈呈)



ひびきあい集会(情報モラル)

◆祖母からの言葉（3年生徒）

・毎年私の誕生日に、「生まれてきてくれてありがとう！これからもよいお姉さんとしてよろしくね。」と、おばあちゃんが手紙をくれます。私が生まれてきたことに感謝と言ってきて、家族でテーブルを囲んで「誕生日おめでとう！」と歌ってくれます。私がいることを喜んでくれる温かい家族の心がしっかりと伝わってきて、私の心も温かくうれしい気持ちになるよ。あたたかい心をくれてありがとう。これからもよろしくお願いします。

◆学級の仲間からの言葉（2年生徒）

・体育の時、なかなか跳び箱が跳べずにとっても悔しそうな仲間がいました。すると周りの子がアドバイスをしたり「おいしいよ！」などと、声をかけたりしていました。学級の仲間は、自分だけでなくみんなが跳べるようになりたいと思ったから声かけやアドバイスで優しく接することができたと思います。苦手な子が跳べたら自分のことのように喜んでいて、全体がとても温かい雰囲気になりました。

◆子供たちからの言葉（母親）

・夏休み、昼ごはんを子供たちにまかせて仕事に出かけていました。今までは私がいなくてご飯を食べようとしなかった子供たちが「お昼ご飯は大丈夫だから心配しないで」と言ってくれました。自分のことが自分でできるように成長してくれた喜び、食に対する関心から、食べることの楽しさ、作った時の失敗や気持ちなど、家族の中で会話が増えました。子供たちに今までさせなかったことを、これから1つずつ任せていけたら、きっと「ありがとう」という言葉を聞ける気がします。

（2）「いじめ見逃しゼロ運動」の取組（生徒会・校風委員会）12月重点活動

差別や偏見意識から生じる仲間からのいたずらや嫌がらせの根絶を目標に、生徒会が中心となって、「輪中人権宣言」に示された「人を傷つけるようなことは言わないこと、しないこと」「仲間を独りぼっちにしよう、見て見ぬふりはしないこと」の徹底を図りました。

（3）「人権講演会」の開催（地域との連携）12月13日（木）第5・6校時

輪之内町社会福祉協議会の協力を得て、「福祉きらきら講座」講演会を開催しました。聞き手と一緒に想像の世界を創り上げる「かたり」を通して、第二次世界大戦の戦時下、多くのユダヤ人の命を救った杉原千畝の生き方に学びました。